

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月14日

【四半期会計期間】 第45期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 株式会社ソフィアホールディングス

【英訳名】 SOPHIA HOLDINGS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 林 哲也

【本店の所在の場所】 東京都新宿区下宮比町2番26号

【電話番号】 03(6758)0455

【事務連絡者氏名】 取締役 財務・IR担当 巢山 貴裕

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区下宮比町2番26号

【電話番号】 03(6758)0455

【事務連絡者氏名】 取締役 財務・IR担当 巢山 貴裕

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第3四半期 連結累計期間	第45期 第3四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	3,097,449	7,051,019	4,535,210
経常損失 () (千円)	315,192	35,382	343,097
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	350,091	69,322	390,694
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	351,017	68,822	391,562
純資産額 (千円)	764,548	655,083	723,995
総資産額 (千円)	4,926,852	8,371,945	6,810,764
1株当たり四半期(当期)純損失 () (円)	150.56	25.78	161.78
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	15.5	7.8	10.6

回次	第44期 第3四半期 連結会計期間	第45期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純損失 () (円)	35.60	25.82

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動は次の通りであります。

[インターネット関連事業]

第2四半期連結会計期間において、2019年8月1日付けで当社連結子会社であるソフィア総合研究所株式会社が、株式会社アールエムエスの営むSSL証明書販売事業を譲り受けております。

当第3四半期連結会計期間において、2019年10月1日付けで当社の連結子会社であったエリアビイジャパン株式会社は、当社が保有する株式を全て売却したことに伴い、連結の範囲から除外しております。

[調剤薬局及びその周辺事業]

第1四半期連結会計期間において、2019年4月1日付けで当社連結子会社であるルナ調剤株式会社を存続会社、有限会社ビーライク、有限会社コアラ、有限会社ユウアイファーマシー及び株式会社中嶋ファーマシーの4社を消滅会社とする当社連結子会社間の吸収合併を行いました。

また、ルナ調剤株式会社が2019年4月1日付けで株式会社平松薬局、2019年5月1日付けで有限会社長東薬局及び有限会社三榮の株式を取得したことに伴い、第1四半期連結会計期間よりこの3社及び株式会社長東（有限会社長東薬局の子会社）を連結の範囲に含めております。

第2四半期連結会計期間において、2019年7月1日付けで当社連結子会社であるルナ調剤株式会社が、株式会社アルファメディックスの全株式を取得し子会社化し、2019年8月1日付けで盛徳商事有限会社の全株式を取得し子会社化したため、新たにこの2社を連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間において、2019年10月1日付けで当社連結子会社であるルナ調剤株式会社が有限会社メリーコーポレーションの全株式を取得し子会社化し、また、同じく当社連結子会社の株式会社アルファメディックスが、株式会社メディプランが営む調剤薬局事業を譲り受けており、新たに連結の範囲に含めております。

更に、当社連結子会社であるルナ調剤株式会社において、2019年11月1日付けで株式会社アポロンを設立し、新たに連結の範囲に含めております。

また、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載の通りであります。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで政府の各種政策の効果もあり、穏やかな回復が続くことが期待されます。ただし、海外経済の不確実性、金融資本市場の懸念に加え、相次いでいる自然災害により、先行きはやや不透明な状況にあります。

当社グループの既存事業であるインターネット関連事業及び通信事業におきましては、ICT(情報通信技術)を活用したサービスへの需要の高まりや、2020年に向けた社会インフラの再構築が加速する一方で、社会的には少子高齢化、働き手不足、そして政府より働き方が改革の課題として提案されるなど、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変化しております。また、前連結会計年度より新たに参入した調剤薬局及びその周辺事業におきましては、同業他社だけでなく異業種を含む競争の激化、また、人手不足を背景とした人件費の増加、2018年4月からの調剤報酬改定もあり、当社グループを取り巻く環境は、依然厳しい状況が続いております。

このような環境の下、当社グループにおきましては、前期に引き続き財務基盤を確立するため、各種施策を行いました。

インターネット関連事業及び通信事業におきましては、継続した利益率改善を行うため、事業構造の見直しや収益性改善の取り組み、営業体制の整備及び新規顧客獲得の注力を行い、取引先の拡大に努めてまいりました。また、今後需要の拡大が予測されるAIやIoT分野への事業展開を見据え、システム開発案件の受託事業におけるエンジニアの採用・育成を行い、新サービスの開発・提供を通じて、更なる収益力の強化を推進してまいりました。

調剤薬局事業におきましては、M&A等による事業の拡大に努め、また、調剤薬局事業の管理機能を強化し、更なる経営の効率化及び顧客サービスの強化を図ることを目的として、2019年4月1日にルナ調剤株式会社を存続会社、有限会社ビーライク、有限会社コアラ、有限会社ユウアイファーマシー及び株式会社中嶋ファーマシーの4社を消滅会社とする当社連結子会社間の吸収合併を行いました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績としましては、売上高が7,051百万円(前年同四半期比127.6%増)となりました。利益面におきましては、営業損失6百万円(前年同四半期は営業損失245百万円)、経常損失35百万円(前年同四半期は経常損失315百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失69百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失350百万円)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載の通りであります。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

[インターネット関連事業]

インターネット関連のシステム開発、データセンターの運用・保守及び不動産仲介業者向けASPサービスの提供等を行い、システム開発案件の受託事業及び不動産仲介業者向けASPサービス等が好調に推移したものの、売上高は697百万円(前年同四半期比11.6%減)となりました。

[通信事業]

MVNO(1)、FVNO(2)やISP(3)を中心とした情報通信サービスが順調であったことなどにより、売上高は2,153百万円(前年同四半期比22.6%増)となりました。

[調剤薬局及びその周辺事業]

前期に引き続き、M&A等による店舗数の拡大に努めつつ調剤薬局の運営を行った結果、売上高は4,182百万円(前年同四半期比747.7%増)となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループにおける薬局総数は、54店舗となりました。

今後もM & Aを積極的に活用し、当該事業を拡大して参ります。

[その他]

WEBサイトの企画・運営及び管理等を行った結果、売上高は41百万円(前年同四半期比50.3%減)となりました。

- (1) Mobile Virtual Network Operatorの略。自社で無線通信回線設備を持たず、他の移動体通信事業者から借りてあるいは再販を受けて移動体通信サービスを提供する事業者。
- (2) Fixed Virtual Network Operatorの略。自社で固定回線のネットワークを持たず、他の事業者から借りてあるいは再販を受けて固定通信サービスを提供する事業者。
- (3) Internet Services Providerの略。公衆通信回線等を経由して契約者にインターネットへの接続を提供する事業者。

財政状態においては、次のとおりであります。

(資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は前連結会計年度末に比べ1,561百万円増加し、8,371百万円となりました。これは主として、のれんの増加によるものであります。

(負債の状況)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は前連結会計年度末に比べ1,630百万円増加し、7,716百万円となりました。これは主として、長期借入金の増加によるものであります。

(純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は前連結会計年度末に比べ68百万円減少し、655百万円となりました。これは主として、利益剰余金の減少によるものであります。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営環境等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,800,000
計	8,800,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,737,720	2,737,720	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	2,737,720	2,737,720		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日		2,737,720		2,358,000	-	652,986

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 48,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,684,700	26,847	
単元未満株式	普通株式 4,220		
発行済株式総数	2,737,720		
総株主の議決権		26,847	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれております。
2. 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式53株が含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
株式会社ソフィアホールディングス	東京都新宿区下宮比町 2番26号	48,800	-	48,800	1.78
計		48,800	-	48,800	1.78

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役	萩原 光朗	2019年7月31日

(注) 萩原 光朗は、辞任により退任いたしました。

(2) 異動後の役員の男女別人数及び女性比率

男性8名 女性1名 (役員のうち女性の比率11.1%)

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第44期連結会計年度 明治アーク監査法人(現アーク有限責任監査法人)

第45期第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間 監査法人アヴァンティア

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,789,555	1,382,521
受取手形及び売掛金	1,078,527	1,529,088
商品及び製品	262,578	601,437
その他	146,241	70,567
貸倒引当金	4,398	1,423
流動資産合計	4,272,504	3,582,192
固定資産		
有形固定資産	165,611	439,508
無形固定資産		
のれん	2,130,213	4,059,123
その他	8,544	15,761
無形固定資産合計	2,138,757	4,074,884
投資その他の資産		
敷金及び保証金	96,896	127,027
その他	191,859	198,893
貸倒引当金	54,864	50,560
投資その他の資産合計	233,890	275,360
固定資産合計	2,538,260	4,789,753
資産合計	6,810,764	8,371,945

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,237,645	2,031,882
短期借入金	680,640	585,000
1年内返済予定の長期借入金	719,396	976,689
1年内償還予定の社債	57,200	57,200
未払金	140,806	189,358
未払法人税等	96,129	30,705
預り金	446,996	30,107
賞与引当金	4,058	2,505
その他	127,919	121,549
流動負債合計	3,510,793	4,024,999
固定負債		
社債	263,800	206,600
長期借入金	2,243,596	3,417,329
退職給付に係る負債	379	4,880
その他	68,199	63,052
固定負債合計	2,575,975	3,691,862
負債合計	6,086,768	7,716,862
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,358,000	2,358,000
資本剰余金	652,887	652,887
利益剰余金	2,218,613	2,287,936
自己株式	61,965	62,055
株主資本合計	730,307	660,896
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,312	5,812
その他の包括利益累計額合計	6,312	5,812
純資産合計	723,995	655,083
負債純資産合計	6,810,764	8,371,945

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	3,097,449	7,051,019
売上原価	2,215,979	4,713,438
売上総利益	881,470	2,337,580
販売費及び一般管理費	1,127,326	2,344,539
営業損失()	245,855	6,959
営業外収益		
受取利息	488	387
受取配当金		6
為替差益	1,003	
貸倒引当金戻入額	2,205	7,788
その他	1,264	8,828
営業外収益合計	4,961	17,011
営業外費用		
支払利息	17,424	39,388
借入手数料	48,609	1,256
為替差損		813
その他	8,264	3,975
営業外費用合計	74,298	45,434
経常損失()	315,192	35,382
特別利益		
関係会社株式売却益	876	45,000
保険解約返戻金	5,749	
その他		2,314
特別利益合計	6,625	47,314
特別損失		
固定資産除却損		8,285
減損損失	3,691	
資産除去債務計上損	1,144	
特別損失合計	4,835	8,285
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	313,401	3,646
法人税、住民税及び事業税	36,936	66,200
法人税等調整額	246	6,767
法人税等合計	36,690	72,968
四半期純損失()	350,091	69,322
親会社株主に帰属する四半期純損失()	350,091	69,322

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
四半期純損失()	350,091	69,322
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	925	499
その他の包括利益合計	925	499
四半期包括利益	351,017	68,822
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	351,017	68,822

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間
(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、連結子会社であった有限会社ビーライク、有限会社コアラ、有限会社ユウアイファーマシー及び株式会社中嶋ファーマシーは、2019年4月1日付で連結子会社であるルナ調剤株式会社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

第1四半期連結会計期間より、株式取得により株式会社平松薬局、有限会社長東薬局、株式会社長東及び有限会社三榮を連結の範囲に含めております。

第2四半期連結会計期間より、株式取得により株式会社アルファメディックスと盛徳商事有限会社を連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間より、株式取得により有限会社メリーコーポレーションを、また新たに設立した株式会社アポロンを連結の範囲に含めております。またエリアビイジャパン株式会社は、保有株式を全て売却したことにより連結の範囲から除外しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

財務制限条項

長期借入金1,325,000千円(1年内返済予定の長期借入金320,000千円を含む)について財務制限条項が付されており、当該条項は以下のとおりです。

連結貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期末の金額または2018年3月期末の金額のいずれか大きい方の75%以上に維持すること。

連結損益計算書上の経常損益につき2期(但し、中間期は含まない。)連続して損失を計上しないこと。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	15,961千円	54,500千円
のれんの償却額	36,287千円	213,592千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

株主資本の著しい変動

当社は、2018年10月18日付で、株式会社E-BONDホールディングスから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が250,000千円、資本準備金が250,000千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,358,000千円、資本剰余金が652,887千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	インター ネット関連 事業	通信事業	調剤薬局 及びその 周辺事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	766,457	1,754,971	493,409	3,014,838	82,611	3,097,449
セグメント間の内部 売上高又は振替高	22,470	1,983		24,453	1,313	25,767
計	788,927	1,756,954	493,409	3,039,291	83,924	3,123,216
セグメント利益 又は損失()	25,234	224,006	282,991	33,750	23,724	57,475

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ECサイト関連事業、海外事業及び健康医療介護情報サービス事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	33,750
「その他」の区分の利益	23,724
セグメント間取引消去	125
全社損益(注)	188,505
四半期連結損益計算書の営業損失()	245,855

(注) 全社損益は、主に提出会社に係る損益であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループ(当社及び連結子会社)は、2018年4月1日付にて調剤薬局及びその周辺事業を推進する会社を設置すると共に、健康医療介護情報サービス事業の機能集約をはかり、資源を効率的に活用可能な体制整備とする、グループ内組織再編を実施いたしました。

これに伴い、第1四半期連結会計期間から、「調剤薬局及びその周辺事業」を報告セグメントとして新たに追加しております。

「遺伝子情報サービス事業」については、本事業の主体であった株式会社ジーンクエストを2017年10月1日付で株式交換を行い連結の範囲から除外したことに伴い、第1四半期連結会計期間よりセグメント区分から削除しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤薬局及びその周辺事業」セグメントにおいて、のれんの金額に重要な変動が生じております。

第1四半期連結会計期間において、有限会社ビーライクの連結子会社化、ルナ調剤株式会社における有限会社テイエヌ商会からの事業譲受、第2四半期連結会計期間において、有限会社コアラの連結子会社化、ルナ調剤株式会社での有限会社メディカルボックス及び有限会社ケイアンドワイからの事業譲受、また当第3四半期連結会計期間において、有限会社コウアイファーマシーの連結子会社化により、のれんが発生しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては825,498千円であります。

「インターネット関連事業」セグメントにおいて、のれんの金額に重要な変動が生じております。

当第3四半期連結会計期間において、株式会社サイバービジョンホスティングでの株式会社アールエムエスからの事業譲受により、のれんが発生しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては35,185千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	インター ネット関連 事業	通信事業	調剤薬局 及びその 周辺事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	675,407	2,152,281	4,182,700	7,010,390	40,628	7,051,019
セグメント間の内部 売上高又は振替高	21,739	1,407		23,146	1,067	24,214
計	697,147	2,153,689	4,182,700	7,033,537	41,696	7,075,233
セグメント利益 又は損失()	73,641	260,851	219,170	115,322	2,513	117,836

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ECサイト関連事業、海外事業及び健康医療介護情報サービス事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	115,322
「その他」の区分の利益	2,513
セグメント間取引消去	104
全社損益(注)	124,900
四半期連結損益計算書の営業損失()	6,959

(注) 全社損益は、主に提出会社に係る損益であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から、従来「健康医療介護情報サービス事業」について、量的な重要性が低下したため「その他」として記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成したものを記載しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤薬局及びその周辺事業」セグメントにおいて、のれんの金額に重要な変動が生じております。

有限会社長東薬局、株式会社長東、有限会社三榮、株式会社アルファメディックス、盛徳商事有限会社、有限会社メリーコーポレーションの連結子会社化及びソフィア総合研究所株式会社、株式会社アルファメディックスの事業譲受が主な要因となっております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては2,054,593千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

短期借入金及び長期借入金が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、四半期連結貸借対照表計上額に前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められますが、当第3四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

(株式取得による子会社化)

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社は、2019年9月12日開催の取締役会において、有限会社メリーコーポレーションの全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2019年10月1日付で全株式を取得しました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	有限会社メリーコーポレーション
事業の内容	調剤薬局事業

(2) 企業結合を行った主な理由

調剤薬局事業の拡大を推進することを目的として本株式の取得を決定したものであります。

(3) 企業結合日

2019年10月1日(株式取得日)

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得する議決権比率

100.00%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社による現金を対価とする株式取得であるためです。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2019年10月1日から2019年12月31日

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	270,000千円
取得原価		270,000

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー業務に対する報酬・手数料等 32,500千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

246,480千円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力の合理的な見積りにより発生したものです。

(3) 償却方法及び償却期間

8年にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	91,301千円
固定資産	18,285
資産合計	109,586
流動負債	86,067
固定負債	
負債合計	86,067

(事業の譲受)

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社の100%子会社 株式会社アルファメディックスは、2019年8月29日開催の株主総会において、株式会社メディプランの調剤薬局事業の譲受について決議し、同日付で事業譲渡契約を締結し、2019年10月1日付で当該事業を譲り受けました。

1. 事業譲受の概要

(1) 譲受先企業の名称及び譲受事業の内容

譲受先企業の名称	株式会社メディプラン
譲受事業の内容	調剤薬局事業

(2) 事業譲受を行った主な理由

調剤薬局事業の拡大を推進することを目的として本事業譲受を決定したものであります。

(3) 事業譲受日

2019年10月1日

(4) 事業譲受の法的形式

現金を対価とする事業譲受

(5) 譲受企業の名称

株式会社アルファメディックス

2. 四半期連結累計期間に係る四半期損益計算書に含まれる被取得事業の業績の期間

2019年10月1日から2019年12月31日

3. 取得した事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	278,171千円(税込)
取得原価		278,171

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー業務に対する報酬・手数料等 27,500千円(税込)

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん金額

220,000千円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力の合理的な見積りにより発生したものです。

(3) 償却方法及び償却期間

7年にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	42,558千円	
固定資産	15,613	
資産合計	58,171	
流動負債		
負債合計		

(子会社株式の譲渡)

当社は、2019年9月12日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるエリアビイジャパン株式会社の発行済株式の全株式を株式会社オフィス24へ譲渡することを決議し、2019年10月1日に譲渡いたしました。本件に伴い、エリアビイジャパン株式会社は当社の連結の範囲から除外されました。

1. 株式譲渡の概要

(1) 譲渡した子会社の名称

エリアビイジャパン株式会社

(2) 譲渡した子会社の事業内容

企業向けソフトウェア、機器の開発、販売

(3) 譲渡先企業の名称

株式会社オフィス24

(4) 株式譲渡を行った主な理由

当社の連結子会社であるエリアビイジャパン株式会社は、2015年3月に当社連結子会社となった後、セキュリティソリューションの提供を中心としたソフトウェア、機器の開発・販売を行ってまいりましたが、市場環境が変化する中、同社事業を拡大し収益改善を目指していくことは困難であるとの結論に至りました。

当社は現在、事業ポートフォリオの再構築と経営資源の集中化を行っており、エリアビイジャパン株式会社を当社から独立させ、当社グループは早期の収益改善を図ることが最適と判断し、株式会社オフィス24への株式譲渡を行うこととしました。

(5) 株式譲渡日

2019年10月1日

(6) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 譲渡損益の金額

関係会社株式売却益 45,000千円

(2) 譲渡した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産	17,110千円
固定資産	0
資産合計	17,110
流動負債	23,349
固定負債	3,717
負債合計	27,066

(3) 会計処理

エリアビイジャパン株式会社の連結上の株主資本相当額と、売却により当社が受け取った財産の時価との差額は、「関係会社株式売却益」として特別利益に計上しております。

3. 譲渡した事業が含まれていた報告セグメント

その他

4. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている譲渡した事業に係る損益の金額

売上高	40,616千円
営業利益	3,065

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純損失()	150円56銭	25円78銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	350,091	69,322
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失 ()(千円)	350,091	69,322
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,325	2,688

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(株式取得による子会社化)

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社は、2019年12月19日開催の取締役会において、有限会社わかば薬局の全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2020年2月1日付で全株式を取得しました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 有限会社わかば薬局

事業の内容 調剤薬局事業

(2) 企業結合を行った主な理由

調剤薬局事業の拡大を推進することを目的として本株式の取得を決定したものであります。

(3) 企業結合日

2020年2月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得する議決権比率

100.00%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社による現金を対価とする株式取得であるためです。

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	64,228千円
取得原価		64,228

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

現時点では確定しておりません。

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

(連結子会社による孫会社の吸収合併)

当社は、2020年1月23日開催の取締役会において、連結子会社であるソフィアデジタル株式会社を存続会社、株式会社オルタエンターテインメントを消滅会社とする吸収合併をすることを決議しました。

1. 合併の目的

当社グループは現在、事業ポートフォリオの再構築と経営資源の集中化を行っており、その一環として更なる経営資源の効率化、サービス運営力の向上、収益の向上を図ることを目的として、本合併を行うことといたしました。

2. 取引の概要

(1) 合併当事会社の名称及びその事業の内容

(存続会社)

企業の名称 ソフィアデジタル株式会社
事業の内容 通信事業

(消滅会社)

企業の名称 株式会社オルタエンターテインメント
事業の内容 ペット総合情報サイトの企画・運営・管理

(2) 企業結合日

2020年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

ソフィアデジタル株式会社を存続会社とし、株式会社オルタエンターテインメントを消滅会社とする吸収合併方式といたします。

(4) 結合後企業の名称

ソフィアデジタル株式会社

3. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理する予定です。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月14日

株式会社ソフィアホールディングス
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

指定社員 業務執行社員	公認会計士	木	村	直	人
指定社員 業務執行社員	公認会計士	藤	田	憲	三

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ソフィアホールディングスの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ソフィアホールディングス及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

「重要な後発事象」に記載されているとおり、会社の連結子会社であるルナ調剤株式会社は、2019年12月19日開催の取締役会において、有限会社わかば薬局の全株式を取得して子会社化することを決議し、同日付けで株式譲渡契約を締結し、2020年2月1日付けで全株式を取得している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

その他の事項

会社の2019年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して2019年2月13日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して2019年6月21日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。